

シエラレオネ国農村部において、小学校から地域へと育む モリンガを活用した持続可能な栄養改善のしくみ作り



モリンガ給食を食べる児童

藤井 千江美

シエラレオネの国の概要



- ・人口、面積ともに、北海道の約0.8倍
- ・言葉：英語、クリオ語、他約60部族語
- ・宗教：イスラム教(60%)、キリスト教(約30%)など
- ・平均寿命：60歳（ユニセフ, 2021）
- ・2014年～2015年：エボラウイルス病の感染が拡大し、約14,000人が感染し、約4,000人が死亡。

本プロジェクトが立ち上がった背景

- 「世界で一番いのちが短い国」と言われたシエラレオネ。
平均寿命54歳、約9人に1人の子どもが5歳までに亡くなる。
(出所:2019年ユニセフ世界子供白書)
- 貧困、そして乾季の半年間はほとんど雨が降らない環境のため、多様な食物の摂取困難。
➡ 特に微量栄養素が不足し、感染症に対する抵抗力の低下
- 診療所へのアクセス困難、貧困、診療所の不十分な設備・器具、医療従事者の不足から十分な治療を受けることが困難。
➡ 病気に罹らない健康な身体作りが大切
- 感染症(エボラウイルス病、新型コロナ感染症など)、紛争が勃発すると国外からの支援は停滞。
➡ 自立して継続できるしくみ作りが大切

- 2018年から国連世界食糧計画(WFP)が、栄養改善と就学率向上を目的に、シエラレオネでも**学校給食制度**を導入。

＜内容＞ ＊ 米、豆類、ベジタブル油、塩を配給。

＊ 地域住民が、それ以外の食材と料理する女性を提供。

➡ 地域住民も、野菜など販売目的で栽培しているため、提供が難しい現状。



WFPから支給されたクスクスを見童の容器に分配、
野菜など入っていない状況@ブルキナファソの村の小学校

地域に自生する栄養価の高いモリンガの活用

ビタミンA、ビタミンB1、ビタミンC、ビタミンE、カルシウム、鉄、カリウム、たんぱく質などの栄養成分が多く含まれており、特にビタミンやミネラルの微量栄養素が豊富。



モリンガ・スクールガーデンで草引きする児童
(2021年11月24日のモリンガの様子)



モリンガ料理

プロジェクトの目的と進め方

第1目標

- 2019年4月～2022年3月: 小学校でモリンガ・スクールガーデンを作り、収穫できた野菜とモリンガの葉を給食に加え、児童たちの栄養を強化する「しくみ」作り

第2目標

- 2022年4月～2025年3月: 母親を含む地域女性を対象に、モリンガ野菜農園を拡大し、自宅料理の栄養も向上し、児童の栄養をより強化する「しくみ」作り

第3目標

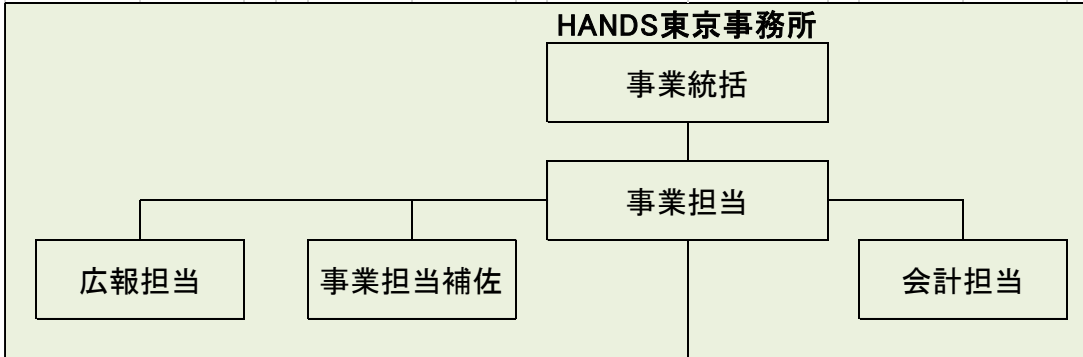
- 2025年4月～: 収穫できた余剰分の野菜やモリンガ葉の加工品を販売し、女性たちの現金収入が増え、自宅料理やヘルスケアへのアクセスが向上する「しくみ」作り



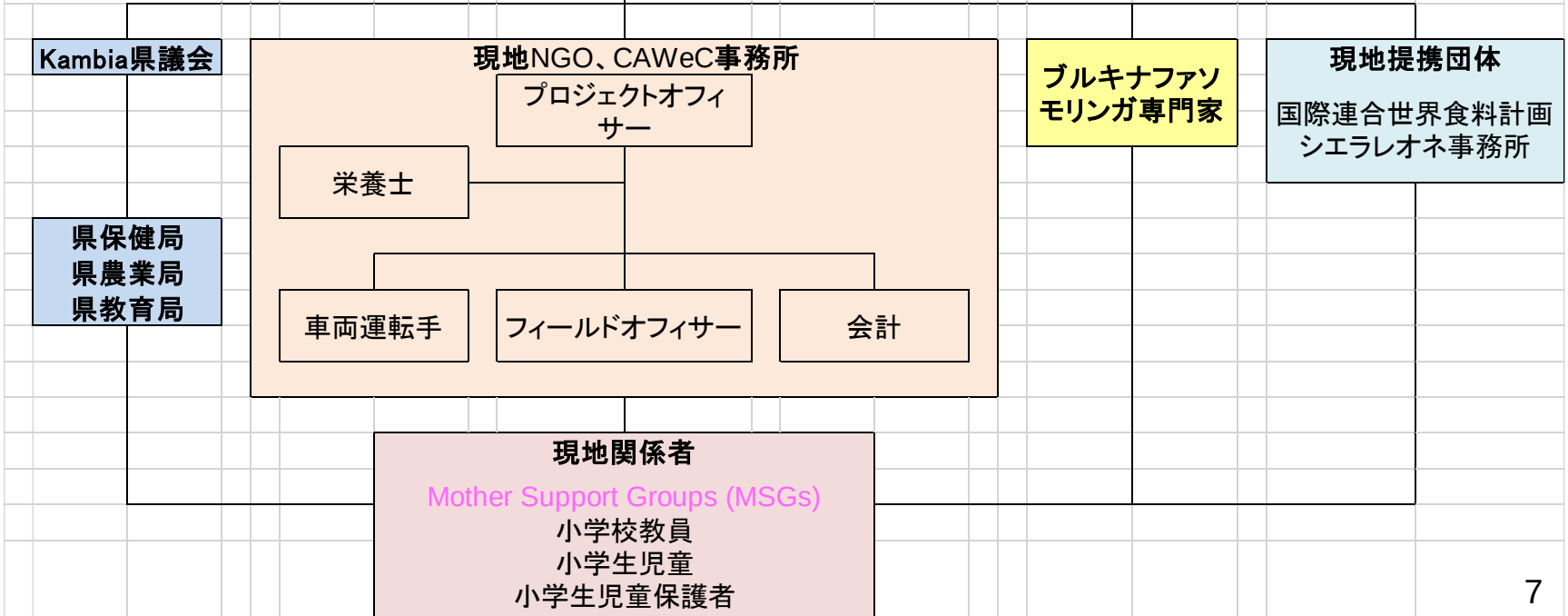
農村部における持続可能な地域住民の健康増進に向けた「しくみ」作り

事業実施体制表

<日本>



<シエラレオネ>



2022年7月～2023年6月の活動の成果と課題

1) 活動資金

- ①味の素ファンデーション助成金（2022年4月～3年間、年間300万円）
→2023年3月、5名の方が現地視察
- ②風に立つライオン基金（2022年4月～2年間、年間約100万円）

2) 対象小学校

2019年から実施している10か所の小学校

3) 対象者

- * 小学校の教員、児童、学校運営委員会(2019年4月～)
- * 各小学校エリアに存在する母親支援グループ(2022年4月～)

Mother Support Group (以下、MSG)とは、自発的に地域の母子保健活動をサポートしたいという女性(母親、伝統的産婆、10代女性など)と男性2名の15～20名で構成されるグループ。

4) 活動と成果

- ①各小学校で、小学校とMSGsが協働して、モリンガ野菜農園の運営管理。
- ②収穫できたモリンガ葉や野菜を、学校給食に週2回曜日を決めて提供。
(1児童1回あたり約2.5gのモリンガ粉末提供@2023年4月→4g目標)
- ③2022年9月と2023年3月、3年ぶりに藤井とブルキナファソの外部講師が現地を訪れ、下記の活動を実施。
 - * MSGs対象に、モリンガ粉末製造と貯蔵に関する研修
 - * MSGs対象に、モリンガ料理講習会
 - * プロジェクトの進捗報告と連携強化目的に、県関係者会議実施(年3回)
- ④地元NGOにより、下記の活動を実施。
 - * 毎月の活動のモニタリング・指導支援
 - * 各校の担当教師対象に、地元栄養士による食と栄養の再研修
 - * 各校の担当教師対象に、モリンガ野菜農園から収穫された余剰分の野菜の販売収益と用途の収支記録の研修



5) 2022年の活動から見えた課題と、2023年4月からの課題への取り組み

① 野菜はよく育っているが、モリンガの生育状況が悪かったこと。

→ * 気候条件(乾季の水不足と雨期の降水量の多さ)

* 地元関係者のモリンガに取り組むモチベーションの低さ(?)



➡ 各児童の家で1本の「マイ・モリンガ」を育てる活動の開始。

* 各児童が持ち寄ることで、学校給食へのモリンガ葉提供を増やす。

* 各家庭でもモリンガ葉が料理に使用されるしくみ作り。



②地元関係者の知識定着を強化する。

➡ 過去に実施した各研修のマニュアルを作成し、マニュアルに基づいたモニタリング・指導支援を行う。

③地元NGOによるモニタリング・指導支援の脆弱さ。

➡ モニタリング・フォームを数回改訂しながら、毎回の指導内容を次回につなげられるような様式へ。

